

美用
しいる
さ。心

えどがわ伝統工芸品

磨き抜かれた〈かたち〉と〈色〉。
作品本来の持つ美しさを身近にご覧ください。

暮らしにワザありテクニク!

さりげない演出で工芸品を
日々の暮らしにも取り入れてみませんか!

絵柄・図柄デザインのマスターピース

時を越えて残る
伝統工芸品の〈型紙〉コレクション。

素敵な
伝統工芸品プレゼント

伝統工芸 Cafe
アルティザンにて
500円以上ご利用の
お客様より抽選にて
工芸品をプレゼント

<ギャラリーイベント> **無料**

● コマの絵づけに挑戦しよう。

4/29(金祝)・6/4(土):午後2時~

● 伝統工芸ファッションショー

5/29(日)・1回目:午後1時~
2回目:午後3時~

会場:しのざき文化プラザ3F 講義室

ギャラリーイベントは
申込みが必要です。

2011.
3.19(土)

2011.
6.12(日)

入場無料



主催:江戸川区・篠崎文化プラザ指定管理者篠崎 SA ハブリックサービス



しのざき文化プラザ **3F** 企画展示ギャラリー

江戸川区篠崎町 7-20-19 3F TEL.03-3676-9071 (代)
都営新宿線・篠崎駅西口直結 開館時間/9:00~21:30
www.shinozaki-bunkaplaza.com



篠崎文化プラザ 第12回 企画展示

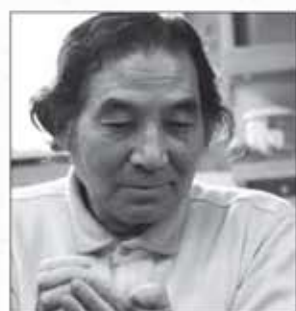
えどがわ伝統工芸

Edogawa Traditional Craft Works

伝統ある工芸品が持つ「使うために作られたもの」の自然な美しさ、江戸川区の工芸者が受け継いできた、伝統の品々をご紹介します。伝統工芸品の日常生活への素敵な取り入れ方やグッドデザイン賞を受けた産学公の取り組みなど様々な角度から江戸川区の伝統工芸の「今」を御紹介します。自然であたたかみのある美しさがかもし出す工芸品をご覧ください。



第12回 企画展示 参加者プロフィール



陶芸家

林 信弘 (ハヤシノブヒロ)

1946年東京都江戸川区生まれ。20歳の時に新聞で見かけた「七輪で焼き物づくり」と言う記事が目にとまり、面白半分て試してみる。地元江戸川付近では地面を1m掘ると粘土層が現れることを思い出し、自宅の庭を掘り粘土を作ってみた。上軸も即席のものを塗り、灰の中に入れて焼いてみた。完成したものはとても柔らかかったが、一応焼き物の形をしていた。以後、庭に自作の窯を作り、陶芸の知識は全く無かったが、本を師に独学で陶芸の道に進む。1981年日本陶芸展入選、江戸川工芸展の区長賞、奨励賞、技能賞など受賞。



江戸切子

薄倉剛二 (サワクラゴウジ)

1934年東京都墨田区生まれ。17歳で江戸切子の修業をはじめ、1963年に独立。江戸切子の伝統的技法を継承しながら、オリジナルのデザインへの挑戦も精力的に行い様々なカットグラス製品を生み出している。現在も地方への実演販売など精力的に活動中。区長賞を2回受賞。江戸川区無形文化財保持者。東京都知事認定伝統工芸士。



江戸風鈴

篠原儀治 (シノハラヨシタル)

1924年東京都墨田区生まれ。1937年頃より、父又平に師事する。海外での技術披露など広く活動。昭和57年江戸川区無形文化財認定。江戸川区文化功績賞、東京都知事賞、優秀技能者賞、文化賞、文部科学大臣賞などを受賞。平成16年名誉都民の称号を授与。

篠原 裕 (シノハラユタカ)
1949年東京都江戸川区生まれ。1961年中学1年生頃よりこの道に入る。全国風鈴作品コンクールにて6年連続受賞。シカゴ、シアトルで江戸職人として初めて展示会を行う。以後、欧米諸外国で展示会を開催。平成20年江戸川区無形文化財保持者となる。



染色家

草薙恵子 (クサナギケイコ)

1953年東京都江戸川区生まれ。大塚テキスタイルデザイン専門学校友禪染色研究科を卒業。伝統工芸新作品展、東日本伝統工芸展入選。江戸川伝統工芸展奨励賞、江戸川区長賞、教育委員会賞などを受賞。手描き友禪の技術(糸目糊)で着物・帯・染絵など、下絵から地染めまで一貫して一人で制作する。主な製品:着物/帯/染絵(顔、軸染など)。また、墨流し染め(マール染め)も手がけている。その作品は映画の衣装、小道具としても使われている。



染色型紙

青木松太郎 (アオキマツタロウ)

1923年東京都江戸川区生まれ。関東大震災のあった年であり、それまで家族は本所に在住。震災の火事の中、家族は親戚のいる葛西へ避難し、そこで誕生する。後に平井へ移り住む。第二次世界大戦後、戦地から戻り現在の仕事を父より受け継ぐ。祖父の代からの型紙職人であり、3代目にあたる。江戸川区伝統工芸展では、区長賞をはじめ3度の受賞。昭和63年2月、江戸川区指定無形文化財認定。



江戸浴衣

高橋常兵衛 (タカハシツネベエ)

1918年栃木県宇都宮市生まれ。1942年、父を染色の師として栃木県宇都宮で独立。戦後、現在の地である平井に工場を移転し、(有)高常を設立。文化奨励賞、区議会議員賞、区長賞等受賞。高橋 榮一 (タカハシエイイチ)
1947年栃木県宇都宮市生まれ。1970年高常入社。有限会社を株式会社化するとともに(株)高常の社長に就任。産業賞優良企業表彰、教育委員会賞、区長賞等を受賞。現社長高橋 榮一を中心に伝統工芸品の文化継承のために、高品質の「Made in Japan」にこだわる「江戸ゆかた」を製造しています。



型小紋

三橋京子 (ミツハシキョウコ)

1946年東京都江東区生まれ。江戸型小紋の家に嫁ぎ、五代目義父榮三の元で修行し、型小紋作家として今日に至る。その特徴は、先代から受け継がれた伝統の技と沖繩紅型(びんがた)を取り入れた斬新な柄感にある。教育委員会賞、江戸川区議会議員賞、江戸川区長賞などを受賞。(財)全国伝統的工芸品振興会に出展。2007年入賞。江戸川区無形文化財。型小紋の技法を現代に伝えながら、沖繩の紅型(びんがた)のテイストを生かした色遣いの作品は、現代の感性にジャストフィットし、新たな小紋文化として定着しつつある。



組紐

奥田禎郎 (オクダノブロー)

1931年東京都江戸川区生まれ。1954年元木俊之助商店にて営業の手伝いに始まり、1957年元木俊之助氏が亡くなった後も2年間店を守る。1960年元木商店廃業の後、(株)元木屋奥田商店として独立、創業。男物、女物の羽織紐を得意とし、元木俊之助以来培ってきた色合い、継ぐ技術など匠の技を受け継いでいる。江戸川伝統工芸保存会会員として、区内のイベントにて帯締他、色々な小物を出店している。